

- ◆実践校名 高石市立加茂小学校, 貝塚市立木島小学校, 岸和田市立修斉小学校, 泉大津市立浜小学校, 田尻町立小学校, 泉南市立信達小学校
- ◆主題名 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 **道徳の内容** B- 親切、思いやり
- ◆ねらい その場にはない友だちを思いやるけんちゃんの行動を見た「ぼく」の心の気づきを通して、温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育てる。

◎ 中心的な発問

びっくりしてけんちゃんを見つめているぼくは、どんなことを思っているでしょう。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎今日の資料について知る。	<p>みんなは、あめ玉は好きですか。</p> <p>○今日はあめ玉の話をしてします。</p>	
展開	◎資料の範読を聞く。 ◎登場人物を把握する。 ◎資料のあらすじをつかむ。 ◎あめ玉が二つ残っていたときのぼくの気持ちを考える。	<p>○だれが出てきましたか。 ○公民館で何がありましたか。 ○公民館のおじさんは、何を配っていましたか。</p> <p>あめ玉が二つ残っていたとき、ぼくはどう思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あめ玉、もらえるのうれしいな。 ・よかった、間に合った。 ・どっちのあめ玉にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が範読する。 ・あらすじの確認を簡単にする。 ・あめ玉を楽しみにしている子どもたちの様子を感じとらせる。 ・残っていたあめ玉は二つだったことを確認する。 ・「ぼく」のうれしい気持ちに気づかせる。 ・けんちゃんの言動が、ぼくの気持ちを変化させたことに気づかせる。
	◎けんちゃんを見つめたときのぼくの気持ちを考える。 ◎思いやりの心について、考えを深める。	<p>びっくりしてけんちゃんを見つめているぼくは、どんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんでそんなこと言うのかな。 ・あめ、ほしくないのかな。 ・ぼくは自分のことしか考えてなかった。 ・まさくんのこと、忘れてた。 ・まさくんのことを考えているけんちゃんはすごいな、えらいな。 ・ぼく、はずかしいな。 <p>けんちゃんの何が「かっこええ」なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当はほしいのに、自分のあめ玉を我慢したこと。 ・あめ玉を2つ見たときに、すぐにまさくんのことを考えたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの気持ちに共感させる。 ・まさくんへ向けたけんちゃんの思いやりの温かさを味わわせる。

終 末		<ul style="list-style-type: none"> ・まさくんの分もあるとわかって、うれしそうにしていたこと。 ・自分より、まさくんのことを考えていたこと。 ・ぼくが考えもしなかったことを考えていること。 	
	◎本時をふりかえり、道徳的価値を深める。	今日の学習で感じたことを書きましょう。	<p><評価></p> <p>自分よりも友だちのことを考え、温かい心で接しようとする事のよさを感じ取っているか。(発言内容、ワークシート)</p> <p><評価をいかした支援></p> <p>けんちゃんへの羨望だけでなく、温かい心で接しようとする気持ちの大切さを引き出す。</p>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

- ・読み物資料の内容を、子どもに理解させることが難しかった。そこで、範読を繰り返す、挿絵を掲示する、ロールプレイをさせるなどの工夫をした。まず、資料の内容をしっかりと捉えさせる大切さを改めて感じた。
- ・中心発問やその他の発問が具体的で良かった。子どもが積極的に発言していた。
- ・評価や評価を生かした支援を意識して授業を進めることで、子どもの発言に落ち着いて対応することができた。また、子どもの考えを揺さぶるポイントもつかみやすかった。
- ・今までの自分を素直に振り返り、これから友だちのことをもっと考えたいという気持ちが伺えた。
- ・普段の生活の中での友だちとの接し方の振り返りの場を、これからもっと作っていきたい。
- ・授業の振り返りをさせるために、ワークシートを使った。この形式に慣れていないこともあり、振り返りではなく、登場人物の心情を書いている子どもが見られた。道徳の学習と国語科の読み取り学習との違いを意識して、今後の指導にあたりたい。
- ・1時間の授業で評価することは、難しい。
- ・振り返りの記述だけでは、作文能力や教師側が期待することを読み取る能力の有無も関係してくるため、評価については、まだまだ研究が必要である。

○道徳の評価についての提言

(評価方法、場面)

- ・ワークシート(振り返り)、発言内容→温かい心で接し、親切にしようとしている。
(具体的な子どもの反応と支援)
- ・評価を明確にすることで、追発問しながら中心発問に迫る。

(道徳の評価についての提言)

- ・評価できる授業をめざす。(授業力をつける)→本音を引き出せるように。
- ・ワークシート、振り返りを蓄積していく。→個人の変容をみるため
- ・子どもの行動、発言の中で、道徳的価値をどれくらい意識しているか見取る。
- ・文章力があるとよい評価になりがちであるが、そうでない子どもたちをどのように支援できるか。
→発言、日常生活の様子、行動等、指導者がいろいろと子どもたちの様子を見取らなければならない。そのためにも、教師間で連携を取り、子どもたちの情報交換を大切にする。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

「けんちゃんの何がかっこええのでしょう。」と発問したとき、子どもの中から「まさくんのことを考えていたから」という、けんちゃんの思いやりが感じられる意見が出てきた。しかし、他の子どもたちはそのよさに気づくことができず、内容の深まりは感じられなかった。その原因として、まず子どもたちの内容理解が薄かったことを助言いただいた。「けんちゃん、まさくん、ぼく」の3人の関係性をとらえること（3人がとてもなかよし）、かごには2つしかあめが残ってなかったことなど、発問に関してポイントとなる背景が理解できていなかったため、子どもたちの考えがなかなか深まらず、中心発問（評価場面）で子どもたちへの評価が難しかった。

・ふり返りの記述から

けんちゃんのことを「やさしいと思った」「かっこいいと思った」という記述が多く見られたが、それにプラス「友だちのことを思って」という記述があり、内容項目である「思いやり」を理解したということは一定評価できるのではないか、という意見をいただいた。しかし、ふり返りの記述だけでは、作文能力やこちらが期待することを読み取る能力の有無も関係してくるため、道徳の評価についてはまだまだ研究が必要という意見も出てきた。

○成果と課題

成果

- ・指導案上で「評価」や「評価を生かした支援」を明確にしていたことで、それらを意識して追発問することができた。

課題

- ・「今日の授業で感じたことを書きましよう。」ではなく、「今日の友だちの意見で『いいな』（なるほど）と思ったことを書きましよう。」というワークシートにしてみると子どもたちの成長をみとりやすいのではないかという意見がでた。
- ・授業では、『いいな』と思った理由も書きましよう。」と付け加えてみながら、ワークシートを変更していく。
- ・毎回の授業のワークシートを保存していくことによって、その子の考えがどのように変容していくかを把握する。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・友だちのことを思っている。
（「おいしいで」「いっしょに食べよう。」などと発言したり、描いたりする。）
- ・思いやる心・・・「もう、あめはないの？」「あといくつありますか？」とおじさんに聞けばいいと発言したり、書いたりする。
- ・けんちゃんが我慢しているような発言をしたり、書いたりする。・・・がまんを思いやる心と評価した。
- ・ゆずってあげるけんちゃんの気持ちをどう思うか考えさせた。
- ・「ぼくいらん」の言葉の中に、けんちゃんのどんな思いがこめられているか考えさせた。

○成果と課題

- ・ぼくが友だちを思いやっていないと思えなかったので、なかなか中心発問にせまりにくかった。
- ・だれの気持ちを考えたらいいのか、読み取りにくかった。
- ・けんちゃんの行動から気持ちを考えることで、これから自分がどうしたいか考える子どもが何人もいた。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・びっくりしてけんちゃんを見つめているぼくの気持ちを考えたとき、ぼくがまさくんのことに気づかずあめを食べてしまったことを、悪いことだととらえている児童が数人いた。そこで、「ぼくは、悪いことをしたのかな。」と問いかけた。ぼくがあめを食べたことや、まさくんのことに気づけなかったことが悪いのではなく、けんちゃんの言動から、友だちのことを思いやるけんちゃんの温かい心に気づいたぼくのよさも感じられるように支援した。
- ・学習の振り返りで、「わたしは、そんなことをしたことはないが、けんちゃんのようになれたらなあ。」という記述から、今までの自分を素直に振り返り、これから友だちのことをもっと考えたいという気持ちがうかがえた。
- ・けんちゃんのことを「やさしい」、「かっこいい」や、「けんちゃみたいになりたい」、という気持ちを書いている子がほとんどではあるが、普段の生活の中での友だちとの接し方について、振り返りの場をもっと作っていきたい。

○成果と課題

- ・評価を意識して授業することで、発問の仕方を工夫することができた。
- ・ワークシートに書いた内容や、発言内容での評価が中心となってくると考えられるが、それだけで量れない部分を、普段の生活の様子から評価することがどこまで可能なのか。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

- ・やっぱりけんちゃんいい人かなと思った。ぼくも、そんなとき、まだきてない子にわけたいです。
- ・けんちゃんは、人のことを考えているのに、わたしはそんなことをしたことがないから、これからけんちゃんのように人のためにおいとけるようになれたらいいな。
- ・けんちゃんやさしいな。ぼくもそんなところある。もうちょっとやさしくしたいなと思う。けんちゃんなんでそんなにやさしいんと思った。

実践校名（岸和田市立修斉小学校）

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ◎基本的な発問『あめ玉が二つ残っていた時、ぼくはどう思ったでしょう。』の場面について
あめ玉を食べたい「ぼく」の気持ちについて発言する子どもが多い中で、まさくんのことを考える発言があった。
- ◎中心発問の場面について
- ・けんちゃんがまさくんを思いやっていることに気付いていない子どもの発言があった。しかし、思いやりについての発言が続いていくと次第に気づく子どもが増えていき、内容も豊かに深まっていった。
 - ・けんちゃんの行動を評価する発言から、けんちゃんの行動をまねしたいという発言にも広がっていった。
- ◎基本的な発問『けんちゃんの何が「かっこええ」なのでしょう。』の場面について
「あめ玉をけんちゃんにゆずること」はすぐに発言されたが、そこから深まりにくかった。そこで指導者から、「けんちゃん、あめ玉が好きかな。それとも嫌いかな。」と投げかけた。すると、「けんちゃんは食べたいのをがまんして、いらんって言った。」「自分よりもまさくんのことを考えて、すごい。」などの発言があった。

○成果と課題

- ・評価や評価をいかした支援を意識して授業を進めることで、子どもの発言に落ち着いて対応することができた。また、子どもの考えをゆさぶるポイントもつかみやすかった。
- ・授業の振り返りをさせるために、ワークシートを使った。この形式に慣れていないこともあり、振り返りではなく、登場人物の心情を書いている子どもが見られた。道徳の学習と国語科の読み取り学習との違いを意識して、今後の指導にあたりたい。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・クラス内で、あめ玉を食べるか食べないかで意見を交流した。「自分なら、あめ玉がおいしそうだし食べる。」と言っていた子が、話し合いを進め他の児童の考えに触れていくうちに、「ぼくも家遠いから、あめ玉なかったらいややから、やっぱり残しとく。」というように意見が変わった子もいた。
- ・「けんちゃんの何がカッコいいの？」という発問に対し、「友だちのことを考えて、あめ玉を残してあげたこと。」「まさくんのことを思いやって、優しいところ。」という反応が返ってきた。さらに、「わたしもこれからはそうしたい。」という、今後の自分に触れた発言もあった。
- ・「相手のことを考えられてえらい。」「けんちゃんは人の気持ちがわかっているし、優しい人だ。」と気づくこともできていた。

○成果と課題

【成果】

- ・児童が共感できる日常生活の一場面が描かれた資料で、欲しい、食べたいという欲求のみで食べてしまうという考えが最初は多かった。しかし、立場を変えて考えると、残しておいてほしいという考え方に変わり、相手を思いやる優しい気持ちを考える児童が増えた。他者に対する思いやりや友だちを思う気持ち、人に優しくすることについて考えることができたいい資料だった。

【課題】

- ・資料の分量が多く、内容的にも少し難しかったため、挿絵等を活用したが、一度の範読では内容理解が難しかった。考えさせる場面を再度範読したり、中心発問として深めたい場面には繰り返し戻ったりしながら進める必要性を感じた。

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

基本的に、ワークシートをもとに、自分よりも友だちのことを考え、温かい心で接しようとする
ことのよさを感じ取っているかどうかを評価の基準にしている。また、普段の生活態度の観察
から、書いていることと実際の行動が伴っているのかも、評価の材料にしている。

具体的には、

「もし、ぼくがそんなことになったら、同じことをしたいなあと思った。」

「ぼくも、給食で長い行列だとしてもゆずってしまうので、けんちゃんと同じタイプだ。」

「まさくんのために、けんちゃんが、あめいらんって言ってたからかっこよかったです。」

などの内容を書いている子どもの普段の生活態度と照らし合わせ、評価をしていくべきだと感じ
た。

○成果と課題

- ・「振り返り」の変遷を中心に評価の材料にしていくのであれば、扱う題材によって「振り返り」の内容が変わっていくので、難しくはないか。
- ・文章力のある子どもが、高評価になるのではないかな？

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）



